

桃花台線の存廃について (共同記者会見 愛知県知事発言要旨)

桃花台線の存廃については、これまで愛知県と小牧市との間で、鋭意、協議を続けてきたところですが、本日、最終的な判断を行うため、会談を行いました。

会談の結果でございますが、

「今後、自立的経営の展望がおよそ見込めそうにない中で、これ以上の公的支援は行えないことから、桃花台線の存続は断念せざるを得ない」ということで合意いたしました。

今後は、運営会社である桃花台新交通(株)の取締役会、株主総会において正式に軌道事業の廃止及び会社の解散について順次決議をし、所要の手続きを進めてまいりたいと考えております。

桃花台線は、桃花台ニュータウンの住民の足として整備したという経緯や、地元小牧市の街づくりを支える重要な交通インフラであることを考えますと、苦渋の決断ではありますが、

桃花台線は、「現在の利用者数が1日当り3,500人程度であり、収支の合う人数とは著しく乖離しており、今後、その乖離を埋めるに足る大幅な増加が見込めない」といった状況にあり、

「路線バスでの対応に一定の目途が立っていること」や「新システム導入の目途も現時点では立たないこと」などから、総合的に判断した結果でございます。

なお、会社の運営資金は、本年、9月頃には枯渇することが見込まれておりますので、桃花台線は、基本的には、それまでには運行を停止することになりますが、代替バスの準備状況等を総合的に勘案して具体的な時期を判断してまいりたいと考えております。

また、交通インフラとして整備された構造物の有効活用についても、しっかりと検討・対応してまいりたいと考えております。